

緊迫の夜 やまぬ抗議

9/17
福井

安保審議大詰め

「強行採決やめろ」 国会前若者ら訴え

戦後日本の転換点を前に、国会の内外が一気に緊迫した。安保保障関連法案の審議が大詰りを迎えた16日、野党は徹底的に反発し、国会前には若者を中心に市民が集結した。「1強政治が数の力で反対世論を押し切ろうとしている」と各地で抗議の声が上がリ、地方公聴会では反対派市民と警察官がもみ合いになった。

安保保障関連法案の審議が緊迫した状況を迎えた16日夜、市民団体が集会を開いた国会議事堂前には身動きが取れないほどの人が詰め掛け、廃案を求めた。「強行採決絶対やめろ」。反対運動を引っ張ってきた若者や憲法学者田愛基さん(23)が「こんな状況で採決するのか。おかしいでしょ」と問いかけると「そうだ」と、賛同する大きな声があがり、国会正門前は熱気がこもっていた。大学生らのグループ「SEALDs」の「クルー」の中心メンバー奥万5千人、警察関係者による

と1万3千人。警察の大型車両が車道に隙間なく並び、機動隊員が人数で警備するなど国会前はこれまで以上の警戒態勢。もみ合いの中、公務執行妨害容疑で逮捕される人も出た。ルポライターの鎌田慧さんはマイクで「警察は引け、市民を妨害するな」と呼び掛けた。初めて参加したという千葉県市川市の女性(62)は「3人の子どもの戦争に送り出したくない。国民の疑問に答えていないのに、採決するのは民主主義ではない」と訴えた。



安保関連法案に反対し、国会前に集まった人たち
=16日夜(魚眼レンズ使用)